

電機労働者懇談会

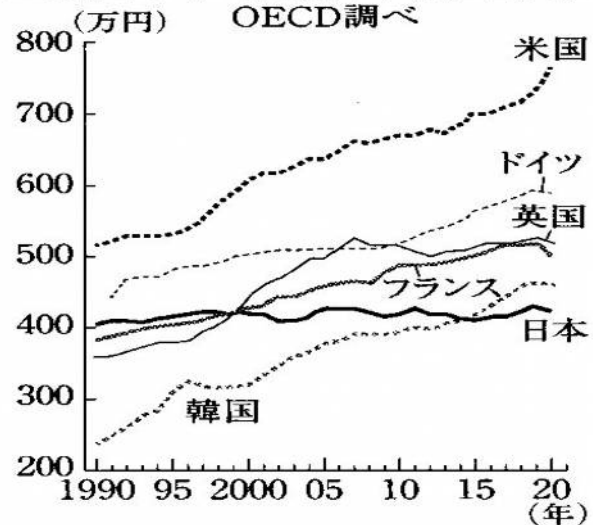
本部: 03-6421-5323
142-0043 東京都品川区二葉2-20-8-2F
関西: 06-6354-7237

事務局Eメール; denkikon@jcom.home.ne.jp
ホームページ; http://www.denki-joho.jp/

電機懇「22春闘への提言」(骨子)

大幅賃上げと希望もてる社会実現を

主要国の平均賃金(年収)の推移



『朝日新聞』2021年10月20日

賃金停滞が続く 異常な日本

日本の平均賃金(年間)は約423万円で、OECD加盟35ヶ国中の2位まで順位が下がりました。19位の韓国よりも低位にあります。(左図参照)

8万円も低いのです。日本のトップ企業であるトヨタよりも韓国の現代(ヒュンダイ)自動車の方が高いのです。この30年間で韓国は90%の賃上げを行なっているのに、日本はわずか4%に留まり、しかも実質賃金はマイナスに転落しているのです。

この30年間で韓国は90%の賃上げを行なっているのに、日本はわずか4%に留まり、しかも実質賃金はマイナスに転落しているのです。

労働法制の 改悪を許すな

政府は、企画業務型裁量労働制の対象業務を拡大しようとしています。営業部門や本社以外の企画・管理業務にも広げようとするものです。

労働時間制の導入や、所定労働日削減とセットの1日の労働時間延長など、労働時間の柔軟化を進めようとしています。長時間不払い労働につながる「裁量労働制」や「みなし労働時間制」の拡大は許されません。

危険な「ジョブ型」雇用の導入

テレワークでは、①時間管理が難しい②仕事の進捗管理が難しいなどを理由に、仕事の成果で評価する「ジョブ型」雇用の導入しようとしています。

また、職務が固定されることから、業務転換や組織の変更などでジョブがなくなれば解雇される危険性があります。

誰もが2万5000円以上の賃金引き上げを コロナ便乗リストラを許さず雇用の確保を

2022年春闘は、コロナ禍だからこそ賃金大幅引き上げ・底上げを、コロナ便乗リストラを許さず雇用の確保を、いのちが守られ安心して暮らせる医療・社会保障・公共体制の拡充を、などの切実な要求を掲げて取り組みましょう。

給料が減り続け、生活できない「8000円も減額になった」など、給料減額への怒りの声が出されています。「賃上げ要求は止めよう」「誰もが賃上げする春闘にしていこう」の声を高めていきましょう。



2021年12月23日、伊草さん勝利判決 横浜地裁前

悪魔の循環から好循環に 経済再生の春闘に 賃金があがらず長期不況の日本経済は、悪魔の循環(賃金抑制)に陥っており、大幅賃上げによる好循環(大幅賃上げ)への転換をはかり、日本経済を再生することが必要です。

一人でも入れる 困ったら 電機・情報ユニオンに相談を
〒142-0043 東京都品川区二葉2-20-8 染野ビル2F
Tel 03-6421-5323, Fax 03-6421-5324 Email: denkiunion@gmail.com



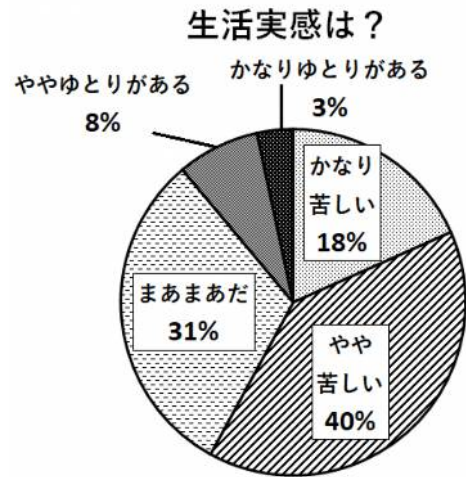
# 将来の安心と生活の潤いを求める傾向が顕著に！

## アンケートへのご協力ありがとうございました

電機懇と電機・情報ユニオンが協同して取り組んでいる22春闘要求アンケートに、全国の職場から協力を頂きありがとうございます。

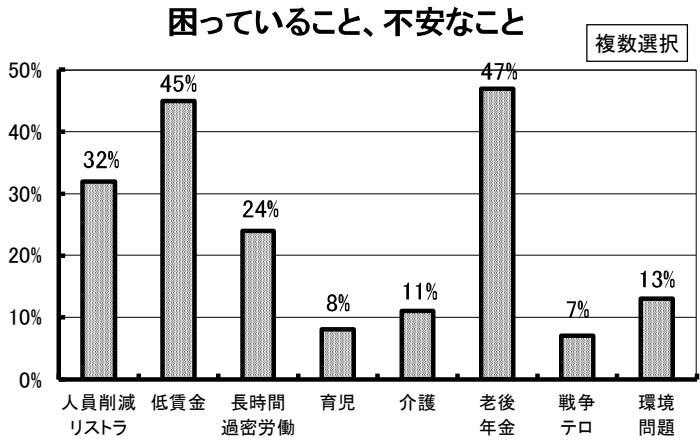
1月初旬までに寄せられたアンケートの中間集計210枚（昨年226枚）の結果から、特徴のある項目を抜粋し報告します。

なお、アンケートの回答結果詳細については、電機懇のホームページへの掲載を予定しておりますので、そちらをご覧ください。また、アンケートは3月末まで継続して実施しております。未回答の方は、ご協力をお願いいたします。

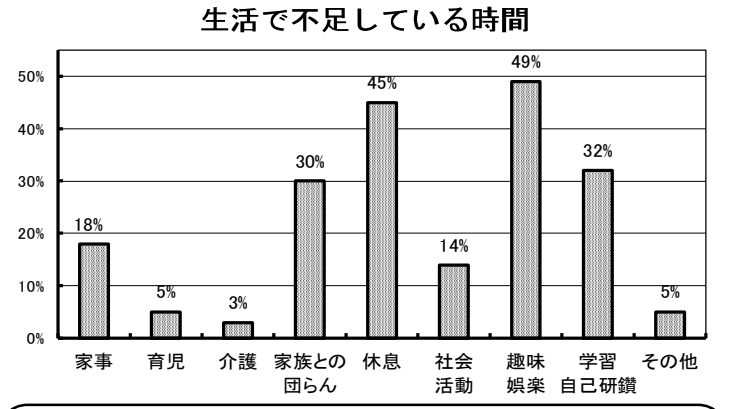


生活実感では、「かなり苦しい」「やや苦しい」を合わせると58%と、昨年より若干上昇しました。一方で、「ゆとりがある」「ややゆとりがある」の合計も11%と上昇し、2極化が進んでいる可能性があります。

年代別では、「かなり苦しい」と答えた割合が40代で31%と最も高いのが特徴で、扶養家族の有無との比較では、扶養家族の有る人の方が全体的に苦しいと回答する傾向が高まっています。



全体集計では、「年金・老後」が47%と最も高くなりました。2番目は「低賃金」で45%でした。これらは昨年を除く例年の傾向と同じですので、秋口よりコロナ禍の影響が少し緩和されたためとも考えられます。3番目に「人員削減・リストラ」が32%で続きます。以上から、将来を含めた経済的な不安の強さが浮き彫りになっています。

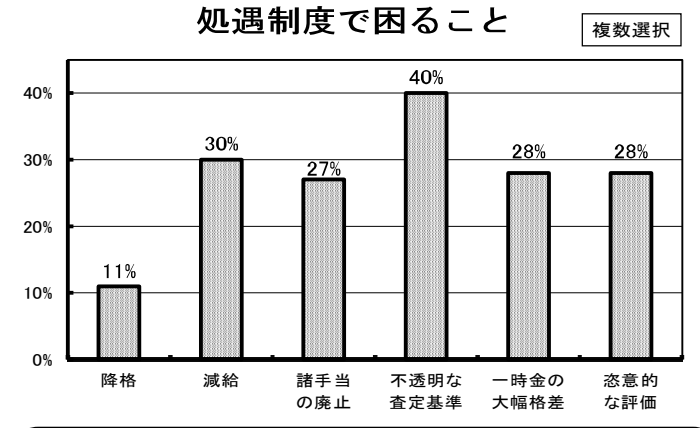
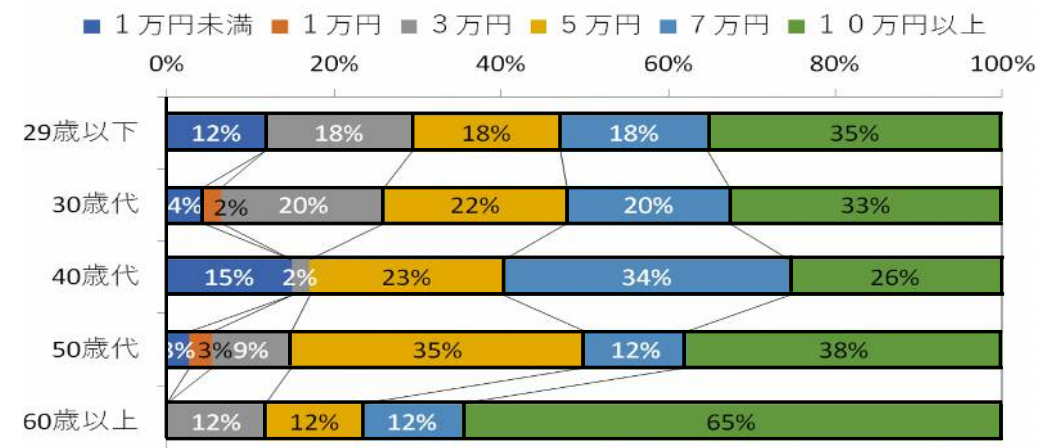


今回初めて設問した「生活で不足する時間」は、上表の結果となりました。生活実感で苦しいと答えた方に「休息」と回答する割合が高く、「ゆとりがある」と回答した方は、「学習・自己研鑽」が高くなる傾向が見られました。

### アンケートに寄せられた声！

- ◆早期退職で再就職支援すると言っておいて、全くなし。派遣で仕事しています。50代で金が少なく大変困っています。鬱です。助けて下さい。自殺ばかり考えています。（日立、男性）
- ◆硬直的な人事制度・評価制度の見直し・全体的な年収レベルの向上・一時金の大幅格差の見直しに向けて、積極的な交渉活動を期待します。（シャープ、男性）
- ◆私はパワハラを受け休職しました。医師の診断書も提出しましたが、会社側はパワハラを認めず、最終的には私が減給処分を受けました。本当にひどい会社だと思います。（三菱電機、男性）
- ◆大卒4年目で給料は月額23万で、手取りだと17万や18万になる。ここから家賃、光熱費など生活費を引くと貯金や遊びなどのお金は無い。今を生きることで精一杯である。大幅な賃上げをすることを強く望む。（NEC、男性）
- ◆同僚間の技術的な会話が重要であるという雰囲気欲しい。勤めている人が積極的にスキルを上げたり、前向きな気持ちになるよう、昇給は必要と思う。（ルネサス、女性）
- ◆転籍して給料が1割ダウンだったが、12月の一時金も1割ダウンした。（沖電気、女性）

### 将来も安心して生活していくために必要な月額(年代別比較)



16春闘時から設問している「処遇制度」に関しては、昨年に続き「不透明な査定」がトップの40%となりました。年齢で比較すると、若い世代ほど「不透明な査定」や「諸手当の廃止」を上げる傾向があり、年齢が上がるにつれて「一時金の大幅な格差」が上がる傾向が見られました。また、2番に高い「減給」については、40代で高くなる傾向が見えています。

今年度より、日々の生活を維持していくために必要な月額と、将来も安心して生活していくために必要な月額とを、別々の質問に分けました。結果として、将来の安心に必要な月額は、日々の生活に必要な額を上回り、実に全体の81%が5万円以上と回答しました。将来への経済的不安がここでも見取れます。